

入選

— 高校生の部 —

「告解」

江頭愛美さん

推し本：『告解』

著：薬丸岳

推したい相手：家族をもつ全ての人



「告解」 江頭愛美

私がオススメしたい本は、薬丸岳さんの告解です。この本は飲酒運転をして事故を起こし、老女を死なせてしまった男子大学生の、刑務所を出所してからの苦難や葛藤、そして亡くなった老女の夫の後悔や懺悔が、真逆の場の視点から書かれています。最初は裁判で嘘の証言をしていた男子大学生ですが、出所してから自分のせいで家族がバラバラになった事実や、自分から離れていった友達の心中を知って辛い思いをし、自暴自棄になりかけます。しかし、それでも歩み寄ってくれた大学時代の恋人や、探偵を使って近づいて来た亡くなった老女の夫と接するうちに、過去の自分の愚かさに気づき改心していく姿に引き込まれました。老女の夫の視点から書かれている章では老女のことをどれだけ大切に想っていたかと、自分がしてきたことへの後悔が述べられていて読んでとても苦しかったです。この本からは家族愛があふれ出るように感じられましたが、家族愛によくある綺麗な話だけではなく、人間の汚い部分や弱い部分、心の奥底にある保心など、目をそむけたくなるような描写もたくさんあります。ですがそういった描写が逆に話をリアルなものに感じさせ、自分を見つめ直す機会を与えてくれたように思います。この本は家族を持つ全ての人にオススメしたいです。が、その中でもやはり私と同年代の人達に読んでほしいです。親が子を想う気持ちが事細かく所々に書かれていて胸を打たれます。男子大学生の証人に立ったり、出所の時に一人で刑務所まで迎えに行ったお母さんの心情が伝わってきて涙が出ました。どうしてお父さんは会いに来ないのかと思ってしまいました。が亡くなる間際に男子大学生に宛てた手紙で、「見捨てたわけじゃなかったんだ。お父さんも後悔しながら亡くなっていったんだ。」ということが分かり、親の愛情の深さを実感しました。この手紙の中の一文に、「逃げ続けているかぎり、人は心から笑えなくなるんだと思う。」という箇所があります。この本のこの言葉はとても重要な役割を果たしているのではないかと思います。男子大学生とお父さんが現実から逃げなければ亡くなる前に会えていたのではないかと思います。逃げ続けてしまったから、会え

ないまま永遠の別れがきてしまったのではないかと。お父さんが亡くなってから本当の気持ちを知ってしまっては、逃げ続けたことをこの先ずっと後悔することになります。それがこの話をより一層悲しくさせていて、言葉に表せない、悔しさや悲しさ、そして感謝がないまぜになり、何とも言えない気持ちになりました。誰にでも自分を産み育ててくれた親がいて、その親がいなければ今の自分は存在しません。自分の行いひとつで喜ばせることも悲しませることもできます。そのことを思うと、胸を張って生きられないような行いはしてはいけないと思いました。法に反すること等もってのほかです。今まで考えたことがありませんでしたが、自分がもし法に反することをしてしまったら、産み育ててくれた親がどんなに悲しい思いをするのか、周りからどんな扱いを受けるのか、親だけじゃなくて姉の一生を左右してしまうかもしれないということが分かりました。しかし、それでも家族は家族です。疎遠になることはあっても血の繋がりがあ限り永遠に家族です。自分が胸を張った生き方をすることは親への恩返しだと思いますし、人生には選択を迫られるような場面もありますが、常に自分が正しいと思う選択をし、逃げることをしない、心から笑える自分でいたいと思いました。そう思わせてくれるオススメしたい本です。